



求職者の動向と意識の変化

－人手不足が続く最近2年での求職者の変化－

本レポートは、「求職者の動向・意識調査」の2015年と2013年の結果を比較し、この2年間における求職者の動向と意識の変化について分析を行ったものです。

2016年3月
株式会社リクルートジョブズ
ジョブズリサーチセンター

求職者の動向と意識の変化

－人手不足が続く最近2年での求職者の変化－

主な結果

2015年12月に公表した「求職者の動向・意識調査2015 基本報告書」結果について、2年前に求職者の動向や意識を調査するために実施した「求職者データレポート（2013年）」結果との比較を行いました。主な結果は以下の通りです。

- 仕事探し期間については、仕事探し期間が「1週間未満」と回答した人の割合が、アルバイト・パートや契約社員で30%に達しており、「3か月以上6か月未満」、「6か月以上」と回答した人の割合が低下しています。人手不足感の高まりが仕事探し期間の変化に表れていると考えられます。
- 全就業形態で、仕事の働き方（就業形態）の満足度が低下しています。直接的な因果関係はわからないものの、長時間労働者の割合が高くなっていることも影響していると考えられます。
- 「就業意向あり」の割合は引き続き全就業形態で9割を超え、高い状態が続いています。

調査概要

調査	求職者の動向・意識調査 2015	求職者データレポート 2013
調査目的	労働市場における求職者の就業実態および意識を明らかにする。	
調査方法	インターネット調査（株式会社インテージモニター利用）	
調査期間	2015年 9月3日～9月16日	2013年 2月1日～2月12日
調査対象	15～69歳までの男女（全国）のうち、 1年以内に「仕事探し」をした人	
対象の仕事探し期間	2014年9月～2015年8月	2012年1月～2012年12月
有効回答数	5,029（学生除く）	18,447（学生含む）
分析対象回答数	5,029（学生除く）	16,438（学生除く）

備考：有効回答数は、回収されたデータを母集団の実際の構成比に合わせて重みづけをするウェイトバック集計前のもの。時系列での結果の比較に当たっては、学生を除いた状態でのウェイトバック集計後の結果を2013年、2015年の調査ともに用いており、性・年代別の内訳の数値と合計の数値が合わないことがある。

参考調査

求職者の動向・意識調査 2015 基本報告書

http://jbrc.recruitjobs.co.jp/data/data20151221_317.html

求職者データレポート 全国版（2013）

http://jbrc.recruitjobs.co.jp/data/data20130401_41.html

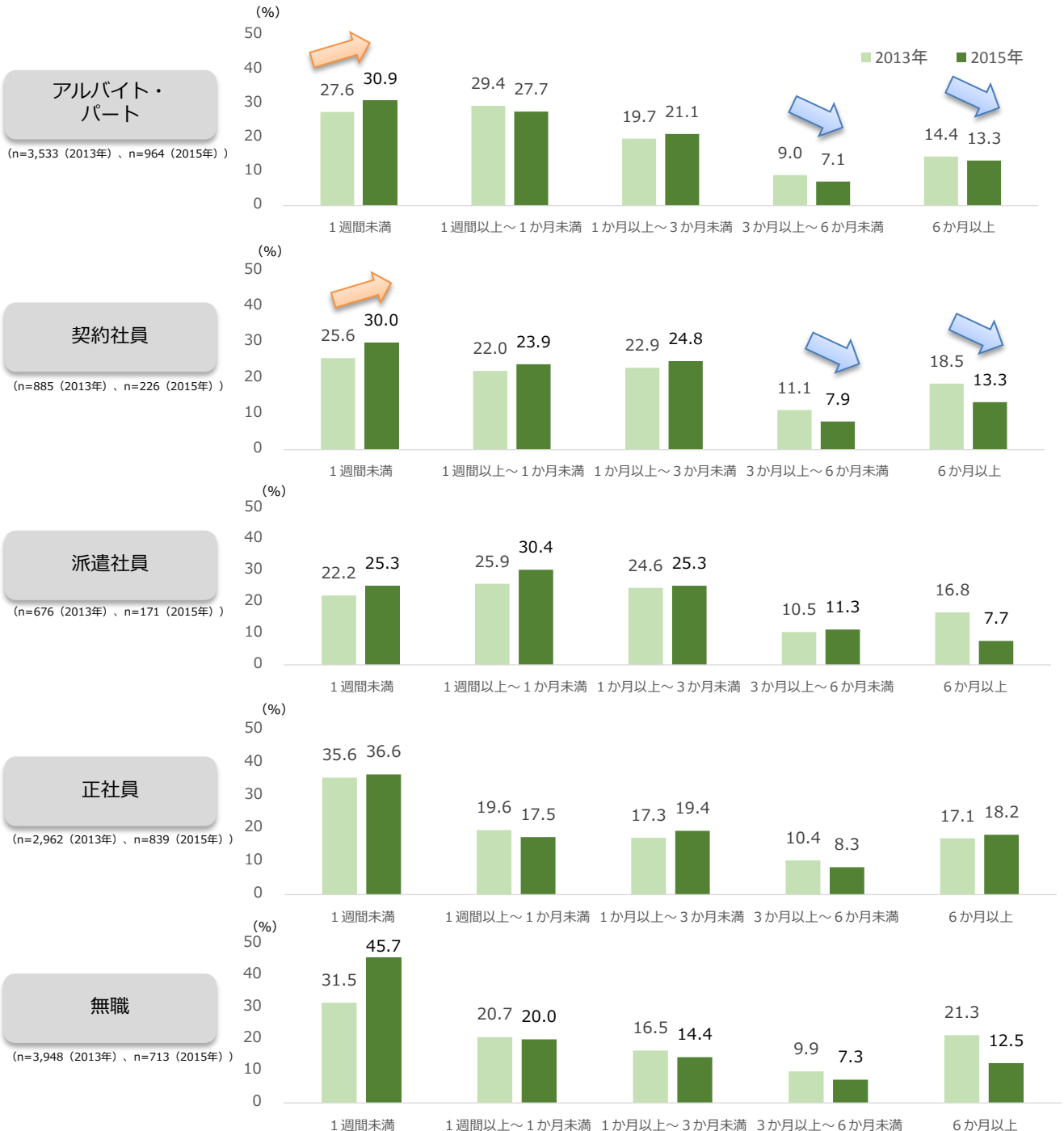
Part 1	仕事探しの実態	
	仕事探し期間の変化（就業形態別）	3
	（参考）仕事探し期間の変化に関する統計指標の動き	4
	仕事探しに利用した求人情報源の変化（就業形態別）	5
Part 2	現在の就業実態	
	2つ以上仕事をしている人の割合の変化①（就業形態別）	6
	2つ以上仕事をしている人の割合の変化②（アルバイト・パートの性・年代別）	7
	2つ以上仕事をしている人の割合の変化③（アルバイト・パートの業種別）	8
	契約期間の変化①（就業形態別）	9
	契約期間の変化②（アルバイト・パートの業種別）	10
	1週間あたりの平均労働時間の変化①（就業形態別）	11
	1週間あたりの平均労働時間の変化②（アルバイト・パートの業種別）	12
Part 3	仕事に対する意識	
	仕事の目的の変化①（就業形態別）	13
	仕事の目的の変化②（アルバイト・パートの性・年代別）	14
	満足度の変化①（就業形態別）	15
	満足度の変化②（アルバイト・パートの性・年代別）	16
Part 4	今後の仕事に対する意識	
	今後の就業意向の変化（就業形態別、アルバイト・パートの性・年代別）	17
	今後最も働きたい就業形態（就業形態別）	18
	希望時給の変化①（希望就業形態別）	19
	希望時給の変化②（アルバイト・パートのエリア別）	20

Part 1. 仕事探しの実態

■ 仕事探し期間の変化（就業形態別）

- ・就業形態別に仕事探し期間の変化を見ると、仕事探し期間が「1週間未満」と回答した人の割合が、アルバイト・パートや契約社員で30%に達しています。他方で、「3か月以上6か月未満」、「6か月以上」と回答した人の割合が低下しています。

就業形態別仕事探し期間の分布の変化（2013年→2015年）



質問文
(2015年)

最近1年間（2014年9月～2015年8月）に行った新卒以外の仕事探し（複数回仕事探しをした方は、直近の仕事探し）の期間はどの程度でしたか（最近1年間の仕事探しが決まって（決まらなかったが）終了したと回答した求職者を対象/単一回答）。

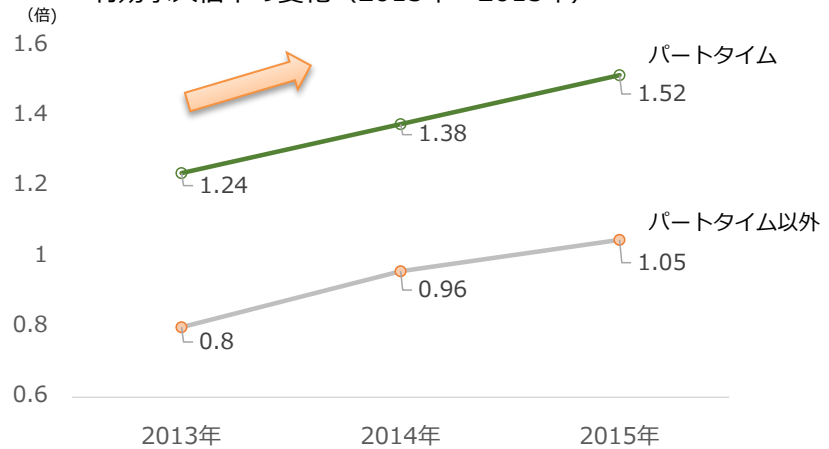
【参考】 仕事探し期間の変化に関する統計指標の動き

・企業の求人数の高まりと少子高齢化に伴う求職者数の減少から、有効求人倍率が上昇するとともに、企業の雇用判断D Iのマイナス幅が拡大するなど人手不足感が高まっています。これが仕事探し期間の変化に表れていると考えられます。

有効求人倍率

有効求人倍率
=
有効求人数 /
有効求職者数

有効求人倍率の変化（2013年→2015年）



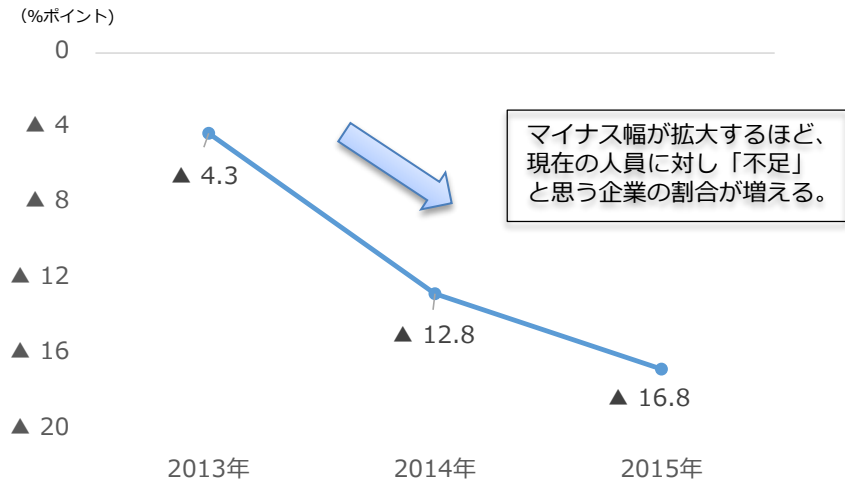
出典：厚生労働省「一般職業紹介状況」

備考：パートタイムとは、「1週間の所定労働時間が同一の事業所に雇用されている通常の労働者の1週間の所定労働時間に比し短い者」を指します。

雇用人員
判断D I

雇用人員判断D I
=
現在の人員に対し、
「過剰」と回答した
企業の割合 (%)
-
「不足」と回答した
企業の割合 (%)

雇用人員判断D Iの変化（2013年→2015年）



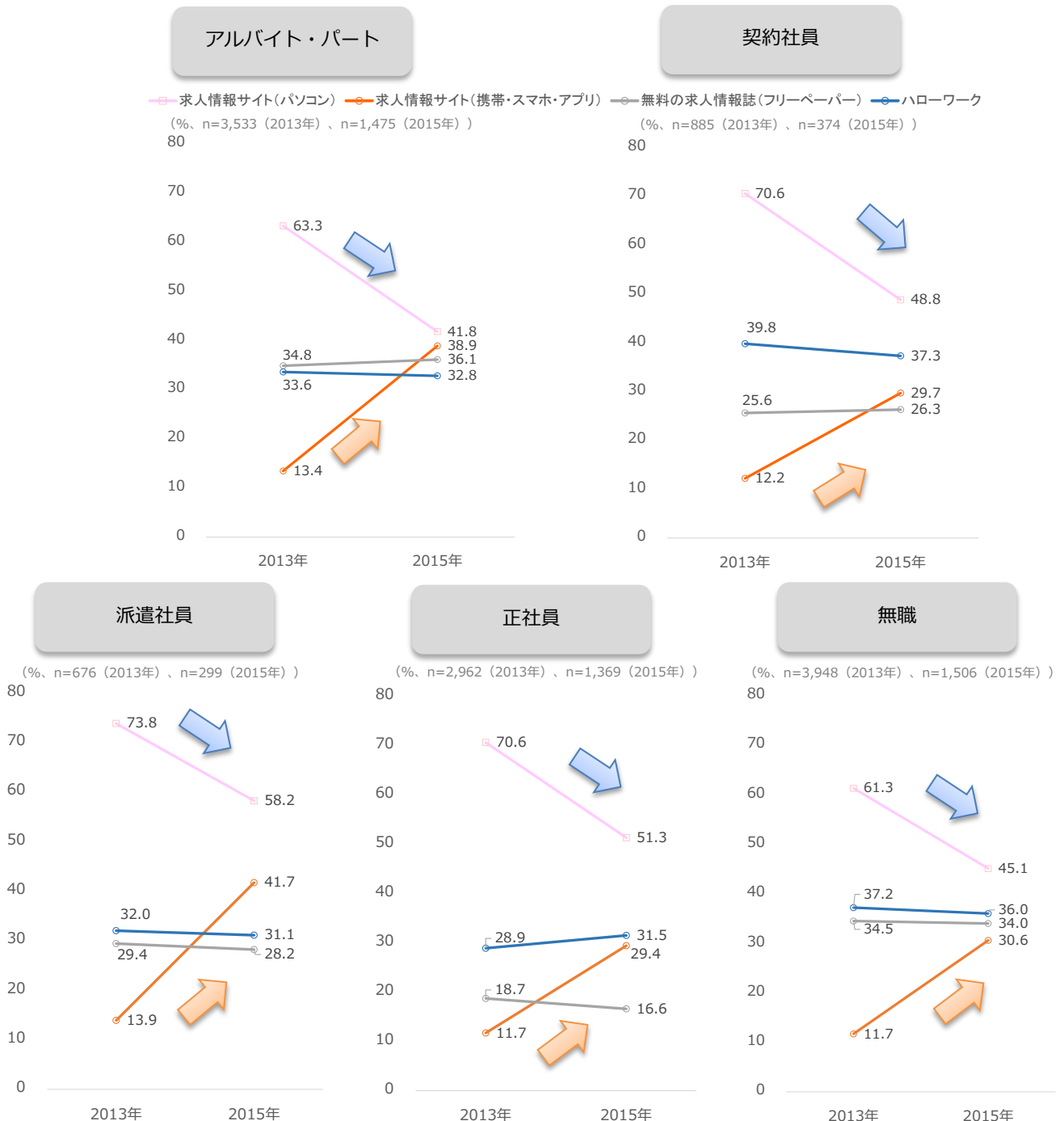
出典：日本銀行「全国企業短期経済観測調査」

Part 1. 仕事探しの実態

■ 仕事探しに利用した求人情報源の変化（就業形態別）

・仕事探しに利用した求人情報源の変化を現在の就業形態別に見ると、全ての就業形態で「求人情報サイト（パソコン）」の割合が大きく低下する一方で、「求人情報サイト（携帯・スマホ）」と「求人情報アプリ」の回答を合わせた求人情報サイト（携帯・スマホ・アプリ）が大きく上昇しています。

就業形態別利用した求人情報源の変化（2013年→2015年）



質問文
(2015年)

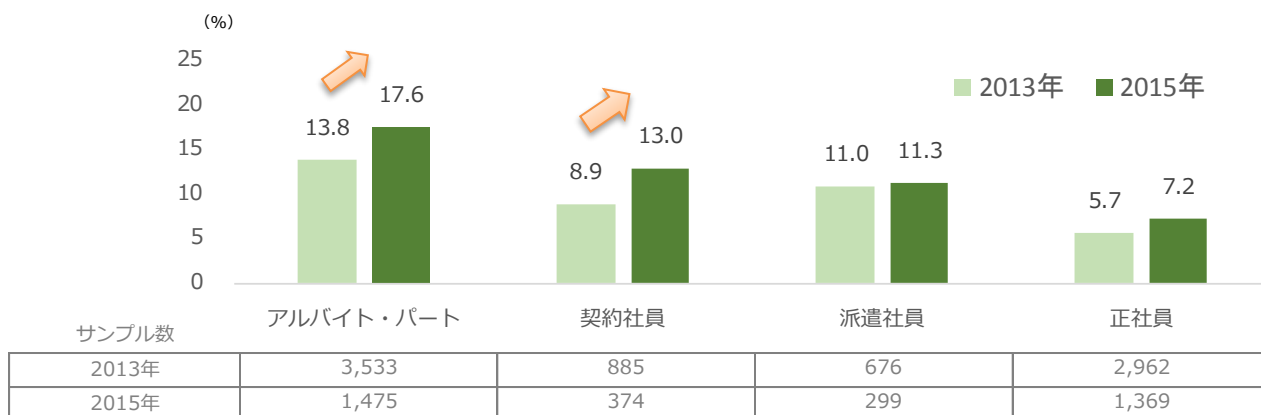
最近1年間に仕事を探すときに、どのような情報源を利用しましたか。

Part 2. 現在の就業実態

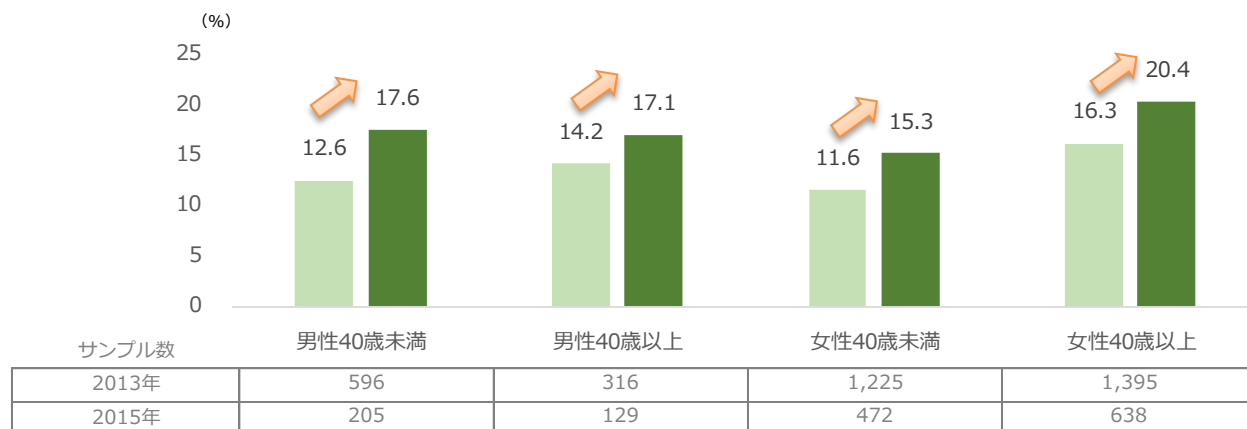
■ 2つ以上仕事をしている人の割合の変化①（就業形態別）

- ・アルバイト・パート、契約社員を中心に、2つ以上仕事をしている人の割合が上昇しています。
- ・回答数が多いアルバイト・パートについて性別・年代別の傾向を見ると、40歳未満、40歳以上の男性・女性の全ての属性で、2つ以上仕事をしている人の割合が増加しています。

就業形態別2つ以上仕事をしている人の割合の変化（2013年→2015年）



アルバイト・パートにおける性・年代別2つ以上仕事をしている人の割合の変化（2013年→2015年）



質問文
(2015年)

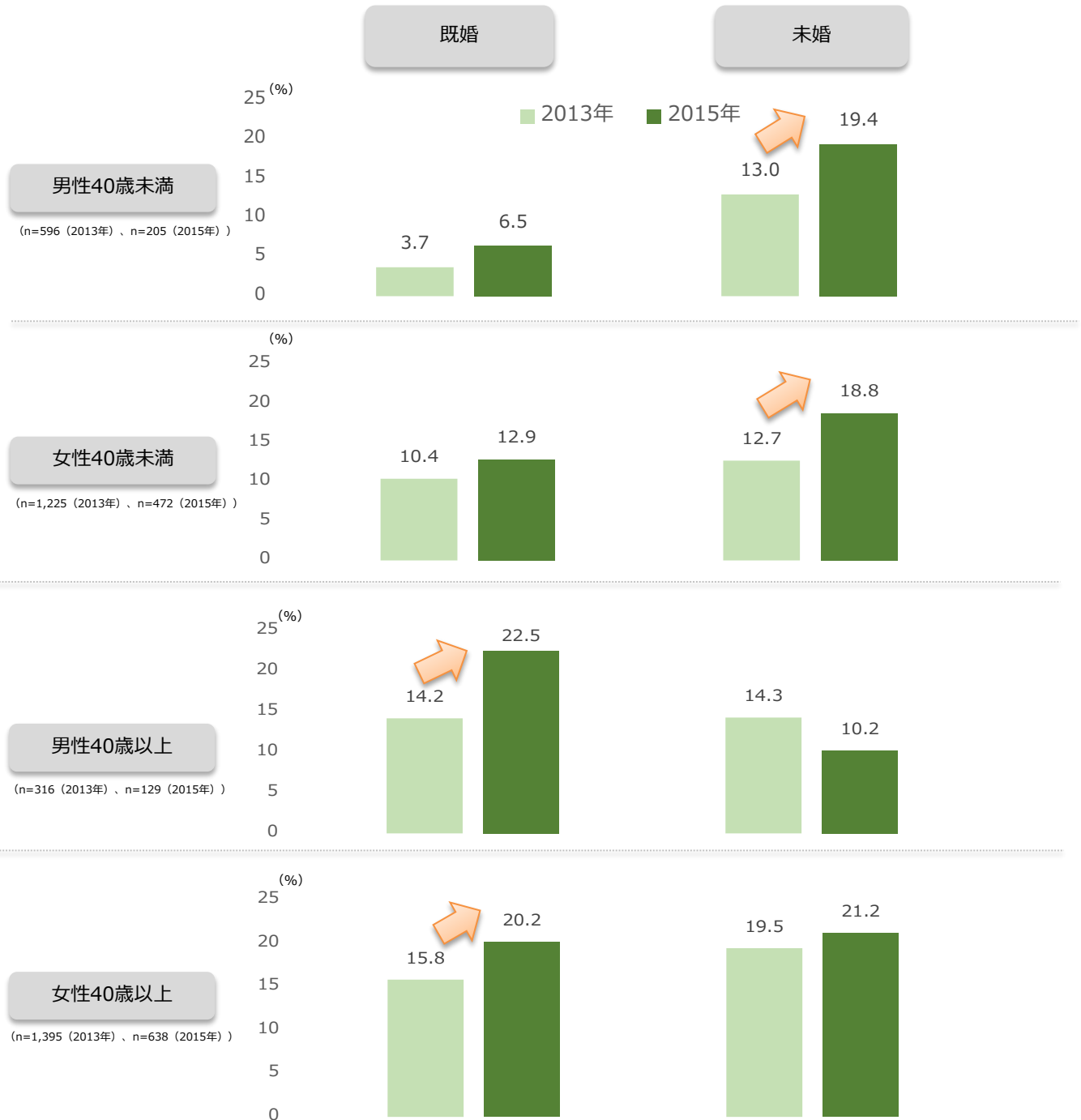
あなたは、現在2つ以上の仕事をしていますか。

Part 2. 現在の就業実態

■ 2つ以上仕事をしている人の割合の変化②（アルバイト・パートの性・年代別）

・回答数が多いアルバイト・パートについて、既婚と未婚に分けた上で変化を見ると、男性・女性ともに、40歳未満は未婚の方が、40歳以上は既婚の方が2つ以上仕事をしている割合は上昇しています。

アルバイト・パートにおける性・年代・婚姻状況別2つ以上仕事をしている人の割合の変化（2013年→2015年）



質問文
(2015年)

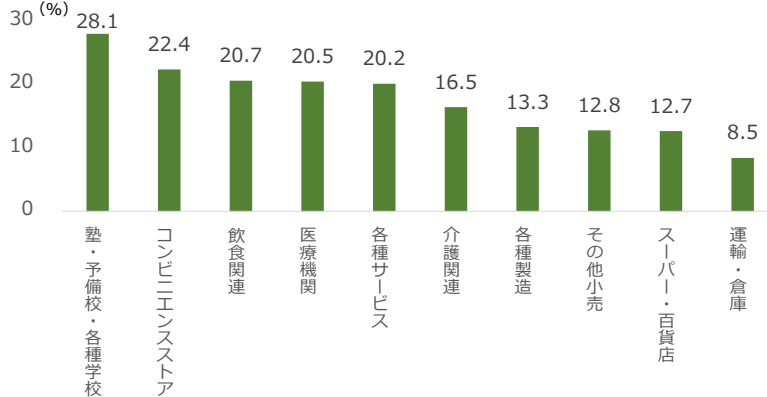
あなたは、現在2つ以上の仕事をしていますか。

Part 2. 現在の就業実態

■ 2つ以上仕事をしている人の割合の変化③（アルバイト・パートの業種別）

- 回答数が多いアルバイト・パートのうち2つ以上仕事をしている人の割合は、塾・予備校・各種学校やコンビニエンスストアで高く、運輸・倉庫で低い。変化を見ると、コンビニエンスストアや医療機関で大きく上昇する一方、運輸・倉庫や塾・予備校・各種学校はやや低下しています。

（参考）アルバイト・パートにおける業種別の2つ以上仕事をしている人の割合（2015年）



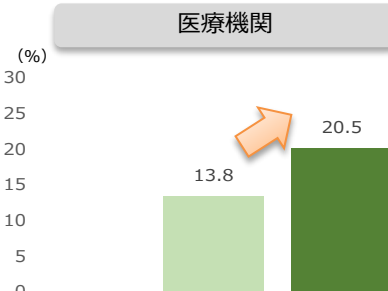
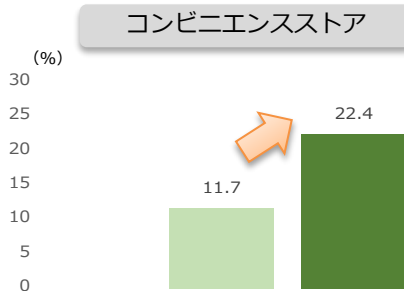
アルバイト・パートにおける業種別の2つ以上仕事をしている人の割合の変化（2013年→2015年）

(n=3,533 (2013年)、n=1,475 (2015年))

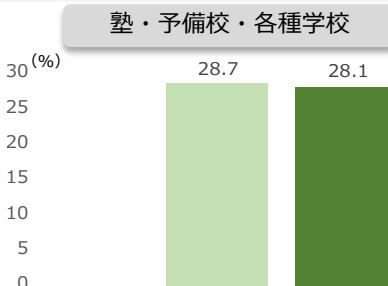
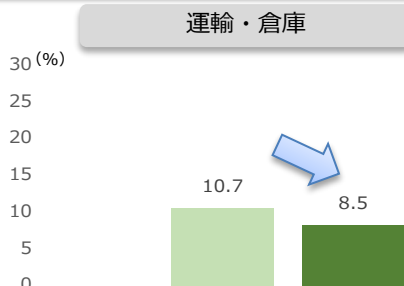
大きく上昇した業種 (+5%以上)	コンビニエンスストア (+10.7%)	医療機関 (+6.7%)	各種サービス (+5.9%)	飲食関連 (+5.7%)	各種製造 (+5.1%)
	スーパー・百貨店 (+1.9%)	介護関連 (+0.3%)	その他小売 (+0.2%)	塾・予備校・各種学校 (-0.6%)	運輸・倉庫 (-2.3%)

備考：全ての業種のなかで、2013年・2015年ともにサンプル数が50以上の業種を対象とした結果。

大きく上昇した業種例



低下した業種例



質問文
(2015年)

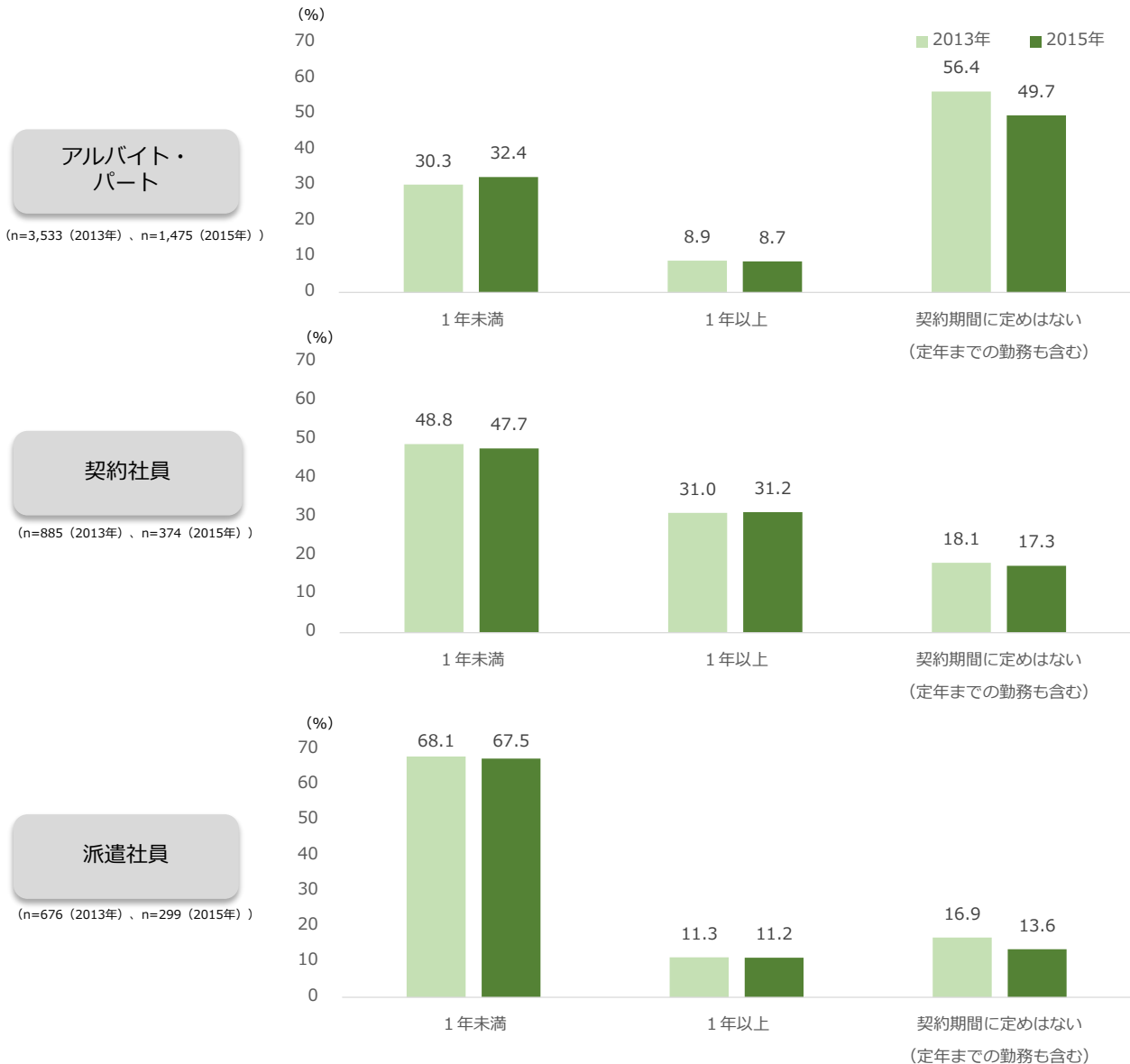
あなたは、現在2つ以上の仕事をしていますか。

Part 2. 現在の就業実態

■ 契約期間の変化①（就業形態別）

- ・就業形態別に契約期間の変化を見ると、アルバイト・パートで、「契約期間に定めない（定年までの勤務も含む）」と回答した割合（いわゆる「無期契約」の割合）は49.7%とほぼ半数を維持しています。

就業形態別契約期間の変化（2013年→2015年）



質問文
(2015年)

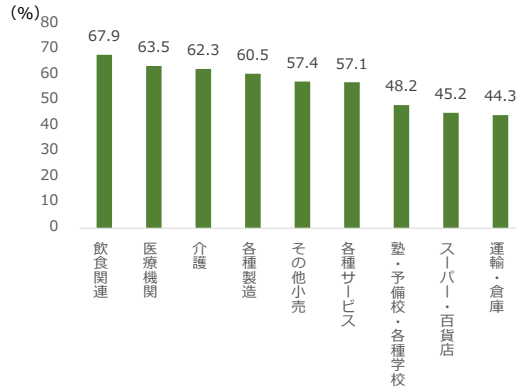
現在の仕事には、決まった契約期間はありますか。ある場合はその期間をお答えください。現在仕事をしていない方は、最近1年間でいちばん最後にした仕事についてお答えください。

Part 2. 現在の就業実態

■ 契約期間の変化②（アルバイト・パートの業種別）

- ・無期契約の割合が高いのは、飲食関連や医療機関。変化を見ると、介護で無期契約の割合が上昇する一方で、飲食関連やその他小売等では低下しています。

(参考) アルバイト・パートにおける業種別の無期契約割合（2015年）



アルバイト・パートにおける業種別の無期契約割合の変化（2013年→2015年）

(n=3,533 (2013年)、n=1,475 (2015年))

上昇した業種
(+0%以上)

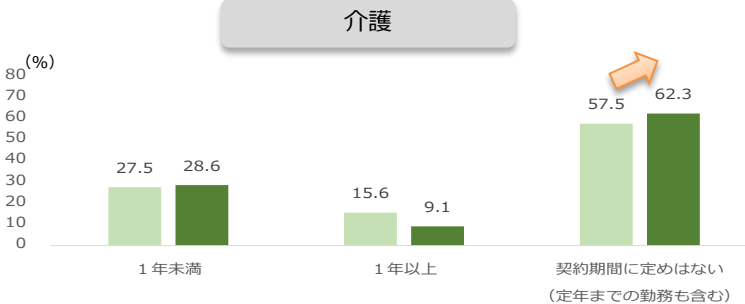
介護 (+4.9%)
スーパー・百貨店 (+0.2%)

低下した業種
(+0%未満)

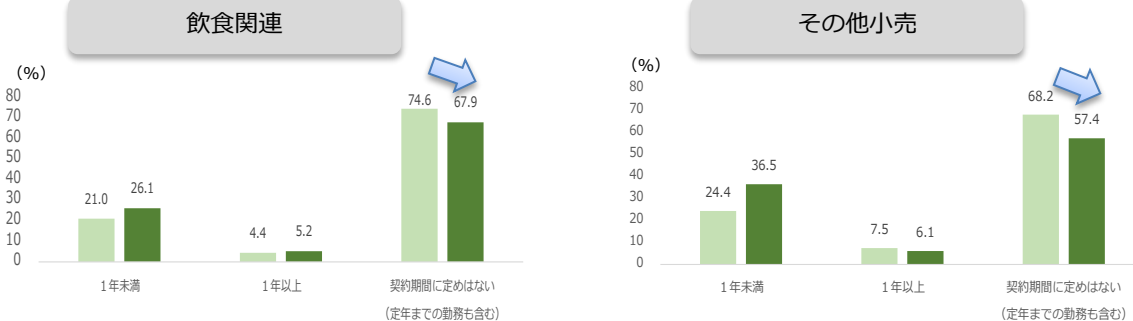
運輸・倉庫 (-3.8%)
塾・予備校・各種学校 (-4.0%)
医療機関 (-4.4%)
各種製造 (-4.6%)
各種サービス (-4.8%)
飲食関連 (-6.6%)
その他小売 (-10.8%)

備考：全ての業種のなかで、2013年・2015年ともにサンプル数が50以上の業種を対象とした結果。

上昇した業種例



低下した業種例



質問文
(2015年)

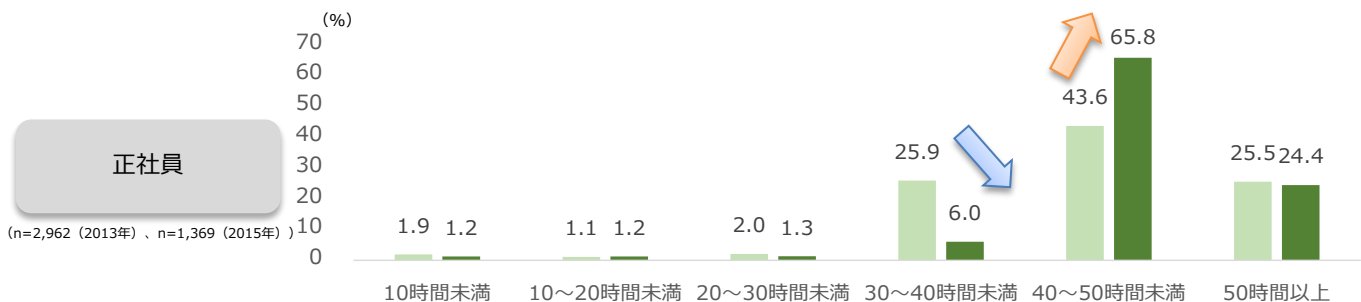
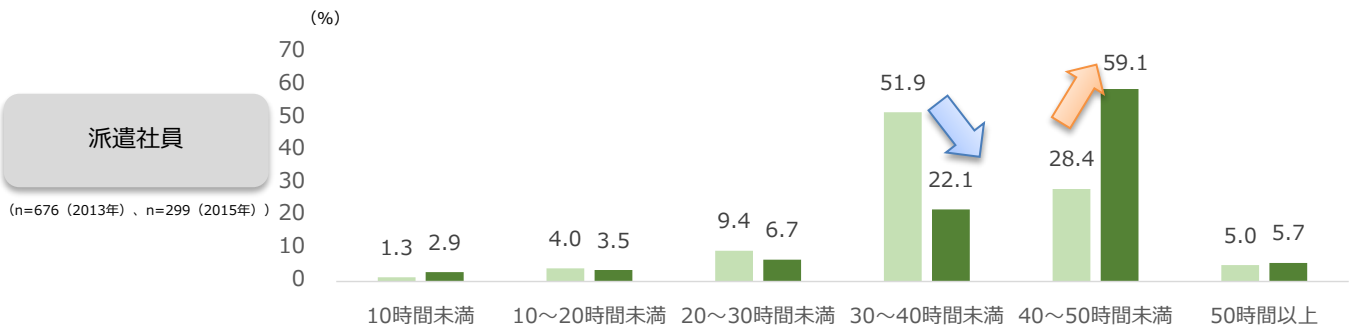
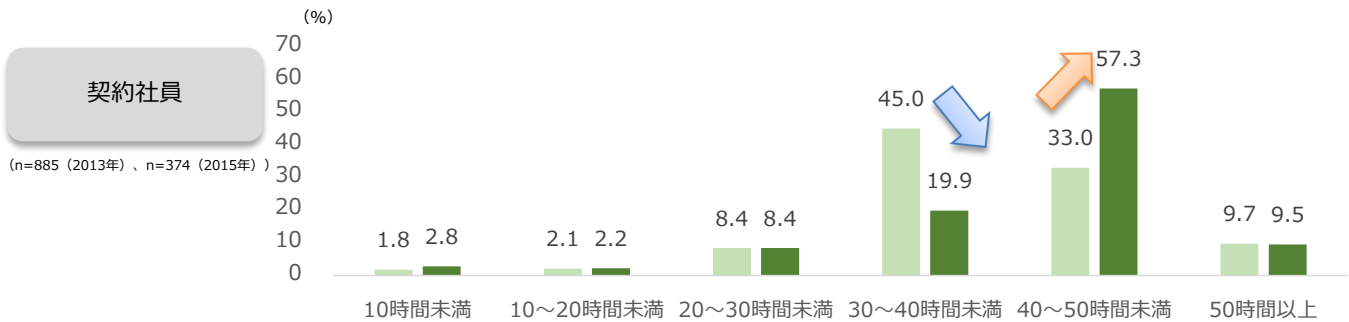
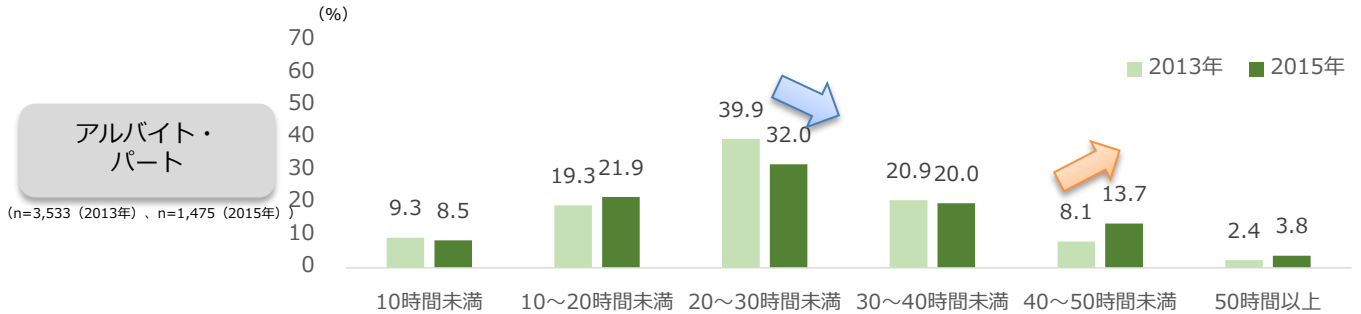
現在の仕事には、決まった契約期間はありますか。ある場合はその期間をお答えください。現在仕事をしていない方は、最近1年間でいちばん最後にした仕事についてお答えください。

Part 2. 現在の就業実態

■ 1週間あたりの平均労働時間の変化①（就業形態別）

・週あたり平均労働時間の変化を見ると、全就業形態で、40～50時間未満の割合が増えています。

就業形態別週あたり平均労働時間の変化（2013年→2015年）



質問文
(2015年)

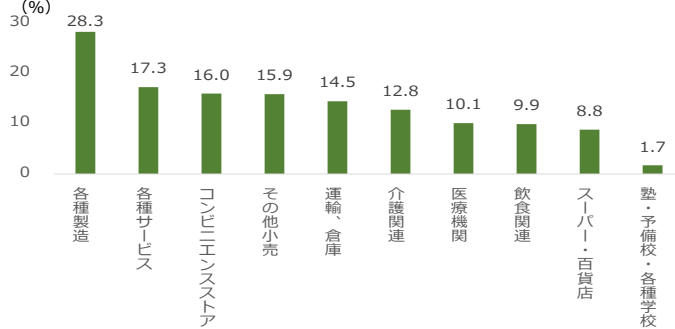
現在の仕事では、1週間に何日くらい働きますか。1日に何時間くらい働きますか。現在、仕事をしていない方は、最近1年間でいちばん最後にした仕事についてお答えください。

Part 2. 現在の就業実態

■ 1週間あたりの平均労働時間の変化②（アルバイト・パートの業種別）

・回答数が多いアルバイト・パートについて、業種別の労働時間を見ると、各種製造で28.3%と40～50時間未満の割合が高くなっています。変化としては、各種製造等多くの業種で40～50時間未満の割合が大きく上昇する一方で、低下した業種（塾・予備校・各種学校）もあります。

アルバイト・パートにおける業種別の1週間あたり労働時間40～50時間未満の割合（2015年）



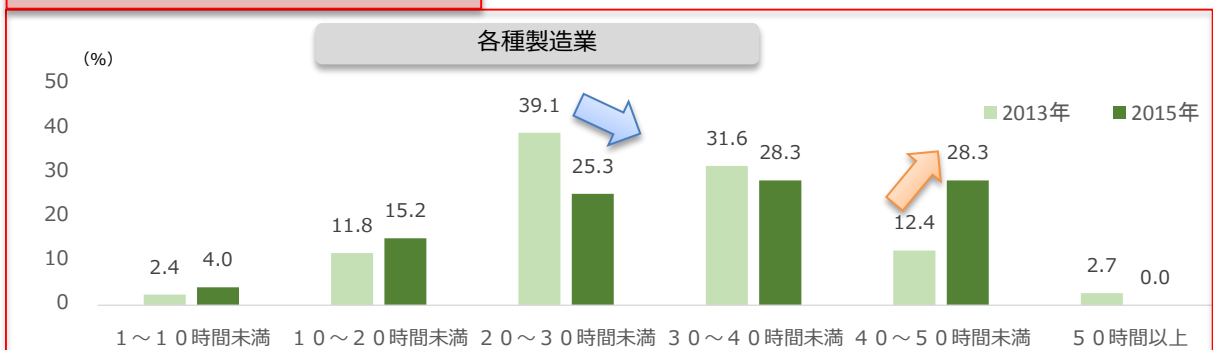
アルバイト・パートにおける業種別の1週間あたり労働時間40～50時間未満の割合の変化（2013年→2015年）

(n=3,533 (2013年)、n=1,475 (2015年))

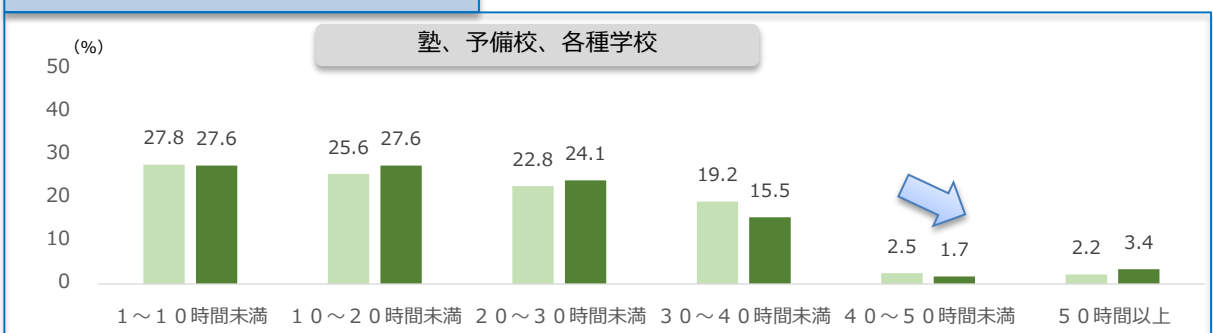
大きく上昇した業種 (+5%以上)	各種製造 (+15.9%)	各種サービス (+8.5%)	その他小売 (+7.7%)	介護関連 (+6.6%)	医療機関 (+6.0%)	コンビニエンスストア (+6.0%)
低下した業種 (0%未満)	塾・予備校・各種学校 (-0.8%)					

備考：2013年・2015年ともにサンプル数が50以上の業種を対象。上記以外にスーパー・百貨店 (+4.6%)、飲食関連 (+4.0%)、運輸・倉庫 (+2.5%)がある。

大きく上昇した業種例



低下した業種



質問文
(2015年)

現在の仕事では、1週間に何日くらい働きますか。1日に何時間くらい働きますか。現在、仕事をしていない方は、最近1年間でいちばん最後にした仕事についてお答えください。

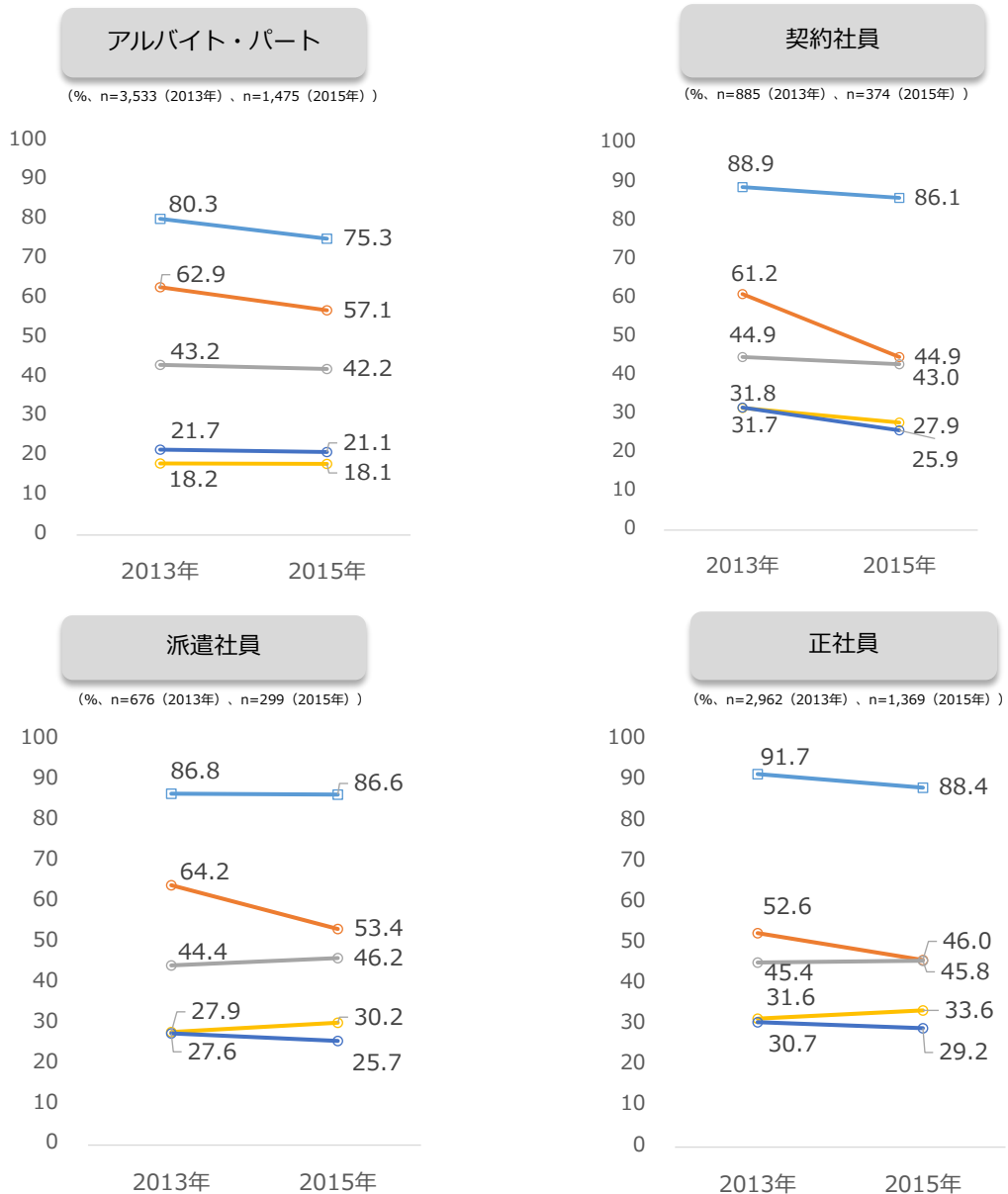
Part 3. 仕事に対する意識

■ 仕事の目的の変化①（就業形態別）

・仕事の目的を見ると、全就業形態で、「生計の維持（生活費や学費等を稼ぐ）のため」や「自由に使えるお金（小遣い）の確保のため」と回答した人の割合が引き続き高くなっています。

就業形態別仕事の目的の変化（2013年→2015年）

- 生計の維持（生活費や学費等を稼ぐ）のため
- 自由に使えるお金（小遣い）の確保のため
- 貯蓄、貯金をするため
- 経済的に自立するため
- 仕事をするのは当たり前だと思うから



質問文
(2015年)

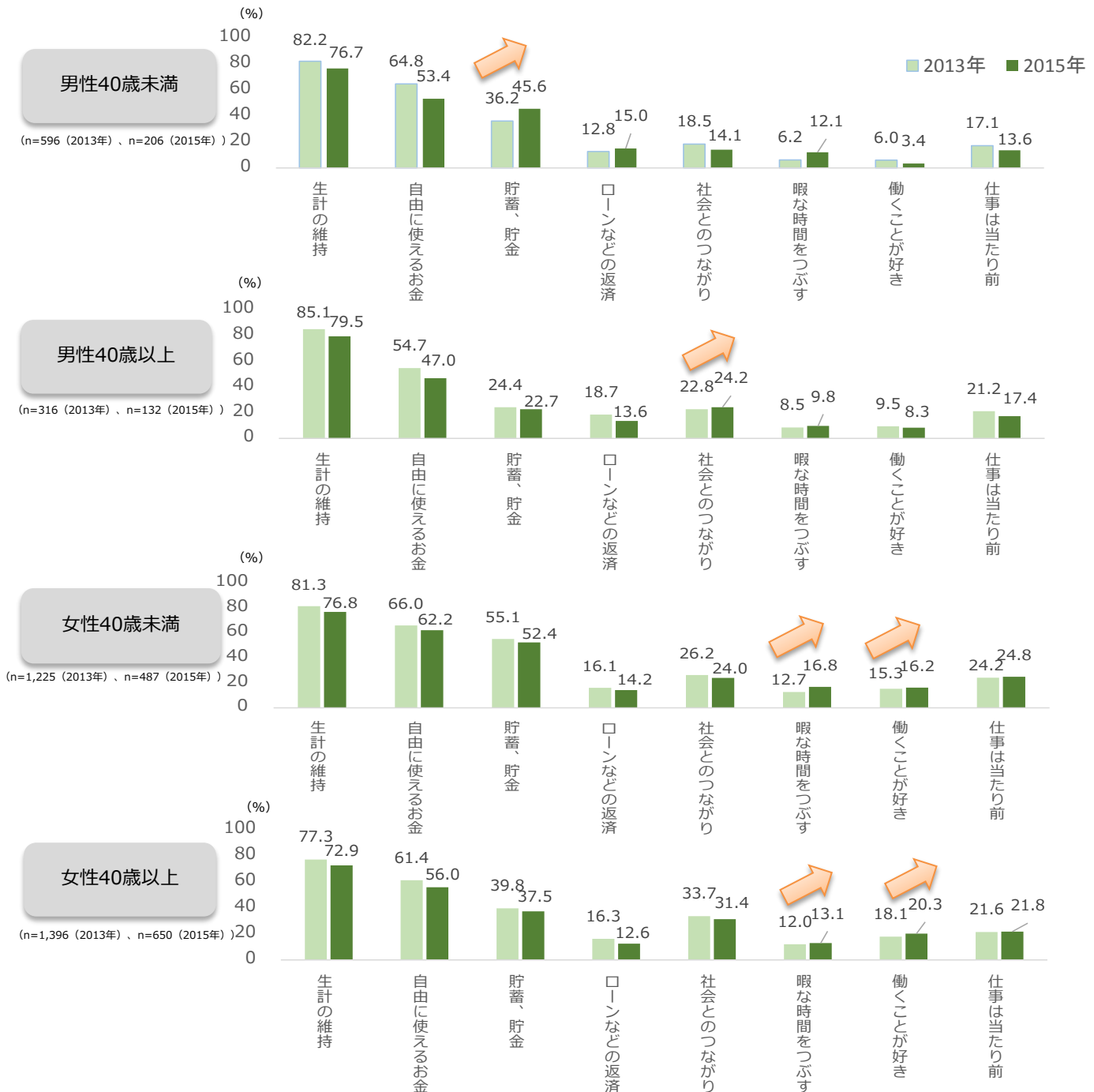
あなたにとって仕事をする目的は何ですか。現在の仕事に限らず、あなたが考える目的に当てはまるものを全てお答えください。

Part 3. 仕事に対する意識

■仕事の目的の変化②（アルバイト・パートの性・年代別）

・回答数が多いアルバイト・パートを性・年代別で見ると、男性40歳未満では「貯蓄・貯金」、男性40歳以上では「社会とのつながり」、女性は「暇な時間をつぶすため」「働くことが好きだから」の割合が上昇しています。

アルバイト・パートにおける性・年代別仕事の目的の変化（2013年→2015年）



質問文
(2015年)

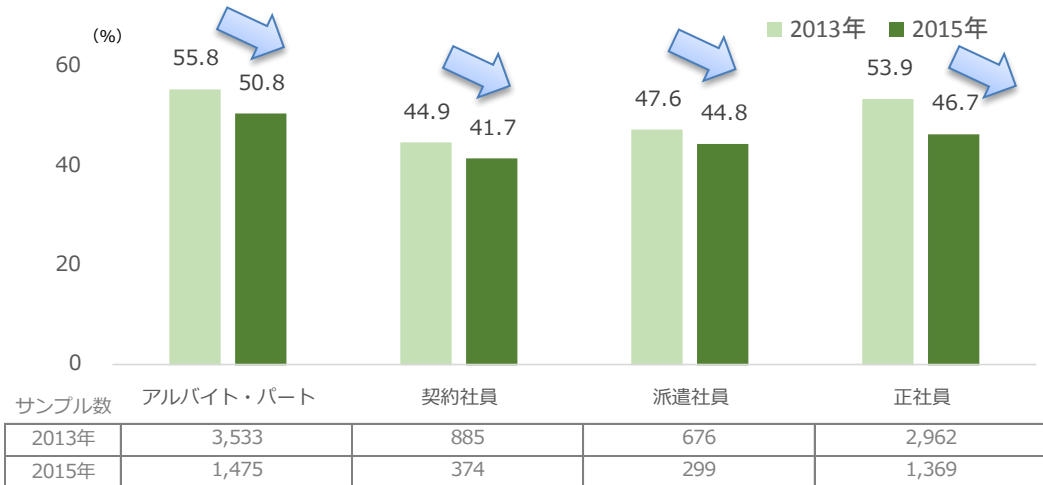
あなたにとって仕事をする目的は何ですか。現在の仕事に限らず、あなたが考える目的に当てはまるものをすべてお答えください。

Part 3. 仕事に対する意識

■ 満足度の変化①（就業形態別）

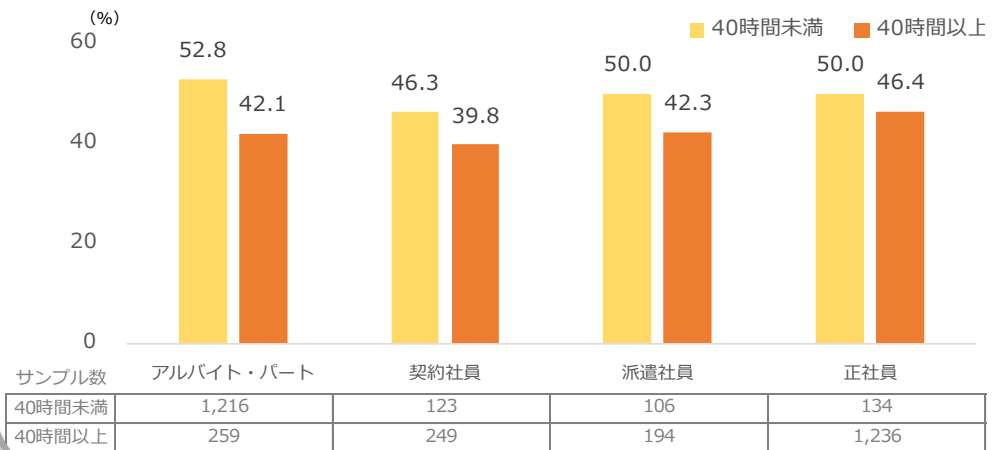
- ・全就業形態で、仕事の働き方（就業形態）の満足度がここ2年で低下しています。
- ・労働時間別に見ると、全就業形態で、40時間以上の人への満足度割合は、40時間未満の人に比べて低くなっており、要因の一つは長時間労働になっている人の割合が高くなっていることが考えられます。

就業形態別満足度の変化（2013年→2015年）



参考

就業形態・労働時間別別の満足度（2015年）



質問文
(2015年)

あなたは、現在の勤務先でしている仕事の働き方（就業形態）に満足していますか。現在仕事をしていない方は、最近1年間でいちばん最後にした仕事についてお答えください。

Part 3. 仕事に対する意識

■ 満足度の変化② (アルバイト・パートの性・年代別)

・回答数が多いアルバイト・パートを性・年代別で見ると、男性40歳未満、男性40歳以上、女性40歳未満、女性40歳以上の全てで、40時間以上働く人の割合が増えるとともに満足とする割合が低下しています。

アルバイト・パートにおける性・年代別の満足度割合と労働時間の変化 (2013年→2015年)



質問文
(2015年)

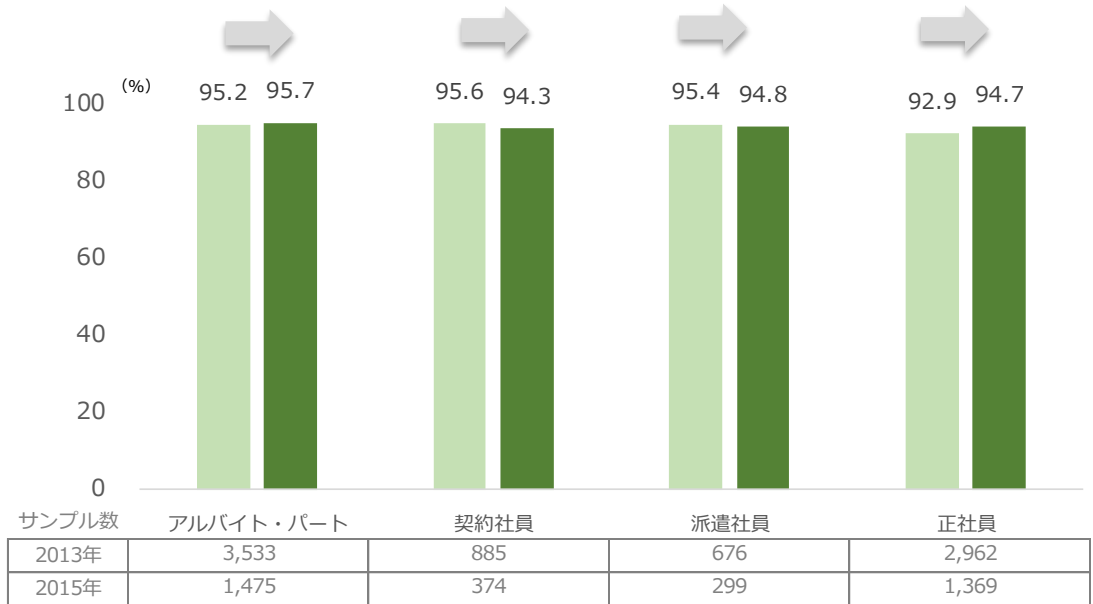
あなたは、現在の勤務先でしている仕事の働き方(就業形態)に満足していますか。現在仕事をしていない方は、最近1年間でいちばん最後にした仕事についてお答えください。

Part 4. 今後の仕事に対する意識

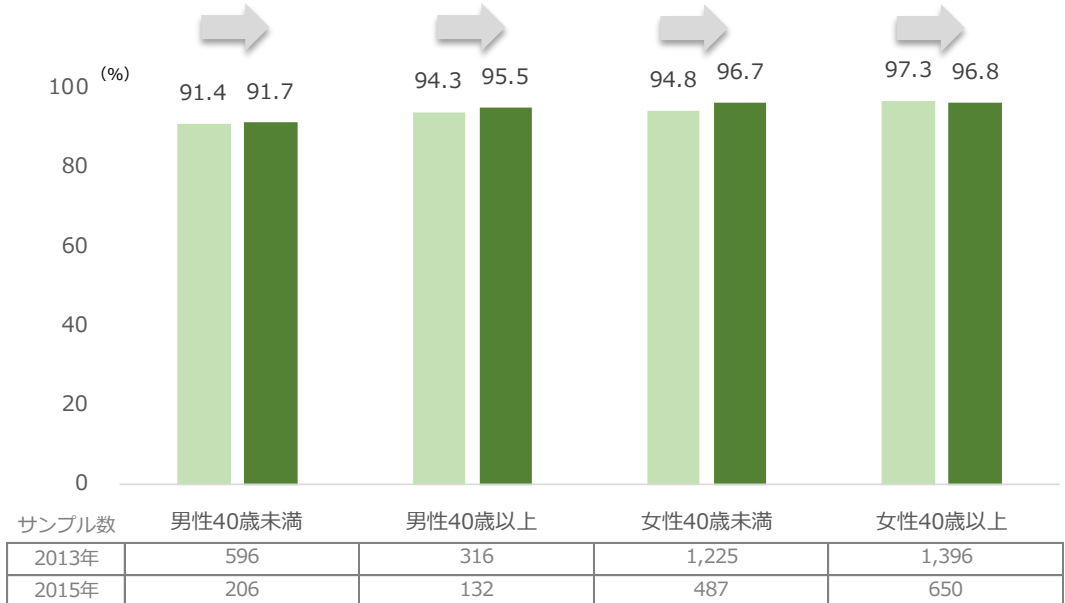
■ 今後の就業意向の変化（就業形態別、アルバイト・パートの性・年代別）

- ・「ぜひ働きたい」、「働いてもよいと思う」、「できることなら働きたくないが、働くしかないと思う」の3つを合わせた「就業意向あり」の割合は全ての就業形態で9割を引き続き超えています。
- ・回答数が多いアルバイト・パートで性・年代別に見ると、40歳未満、40歳以上の男性・女性全てで、「就業意向あり」の割合は高い水準を維持しています。

就業形態別今後の就業意向の変化（2013年→2015年）



アルバイト・パートにおける性・年代別の就業意向の変化（2013年→2015年）



質問文
(2015年)

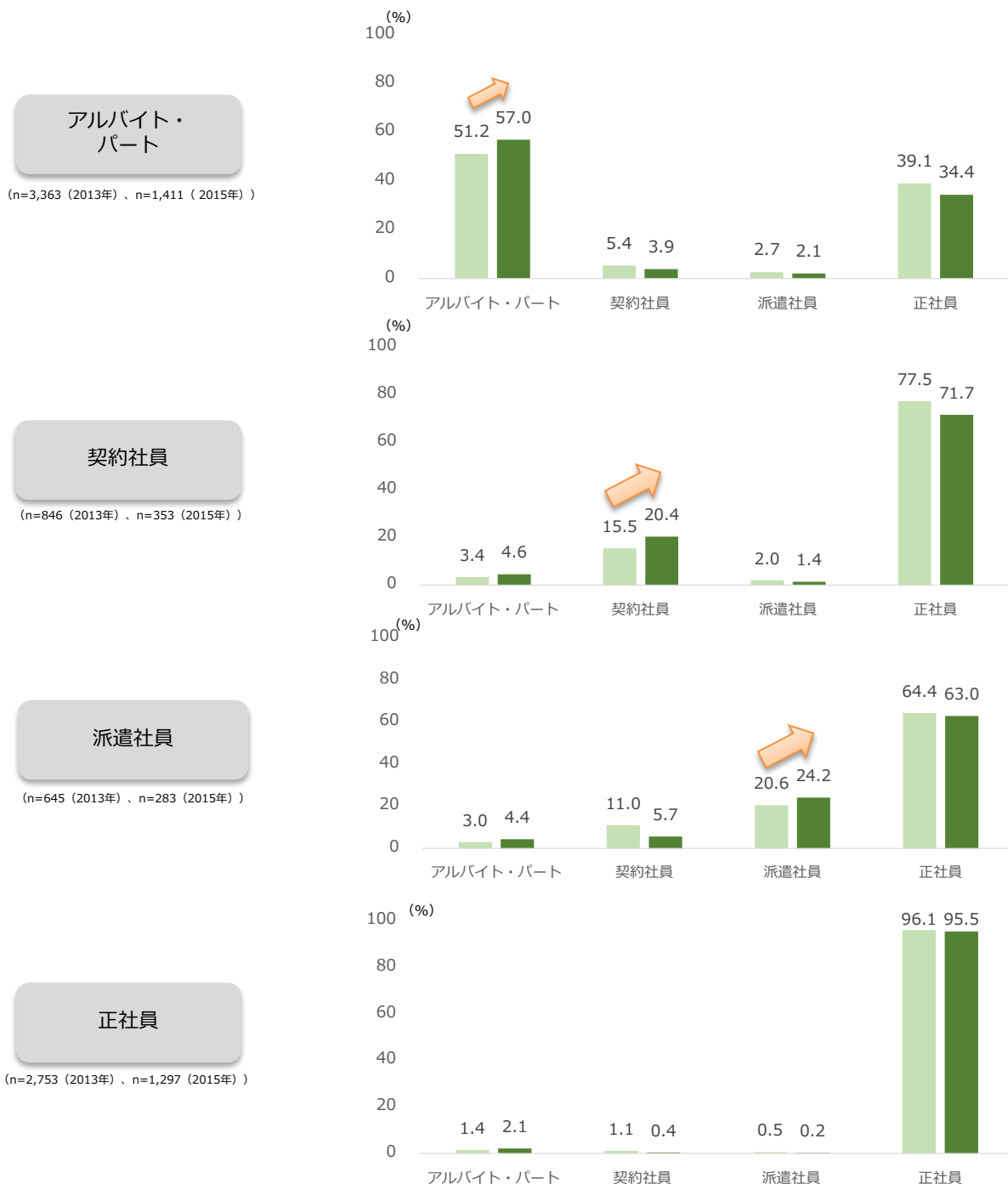
あなたは今後（も）働きたいと思いますか。仕事内容にかかわらず、働く意欲をお聞かせください。

Part 4. 今後の仕事に対する意識

■ 今後最も働きたい就業形態（就業形態別）

・アルバイト・パート、契約、派遣において、正社員を最も希望する割合は引き続き高い一方で、回答時点での就業形態を今後最も働きたい就業形態として回答する割合が高まっています。

現在の就業形態別今後最も働きたい就業形態の変化（2013年→2015年）



質問文
(2015年)

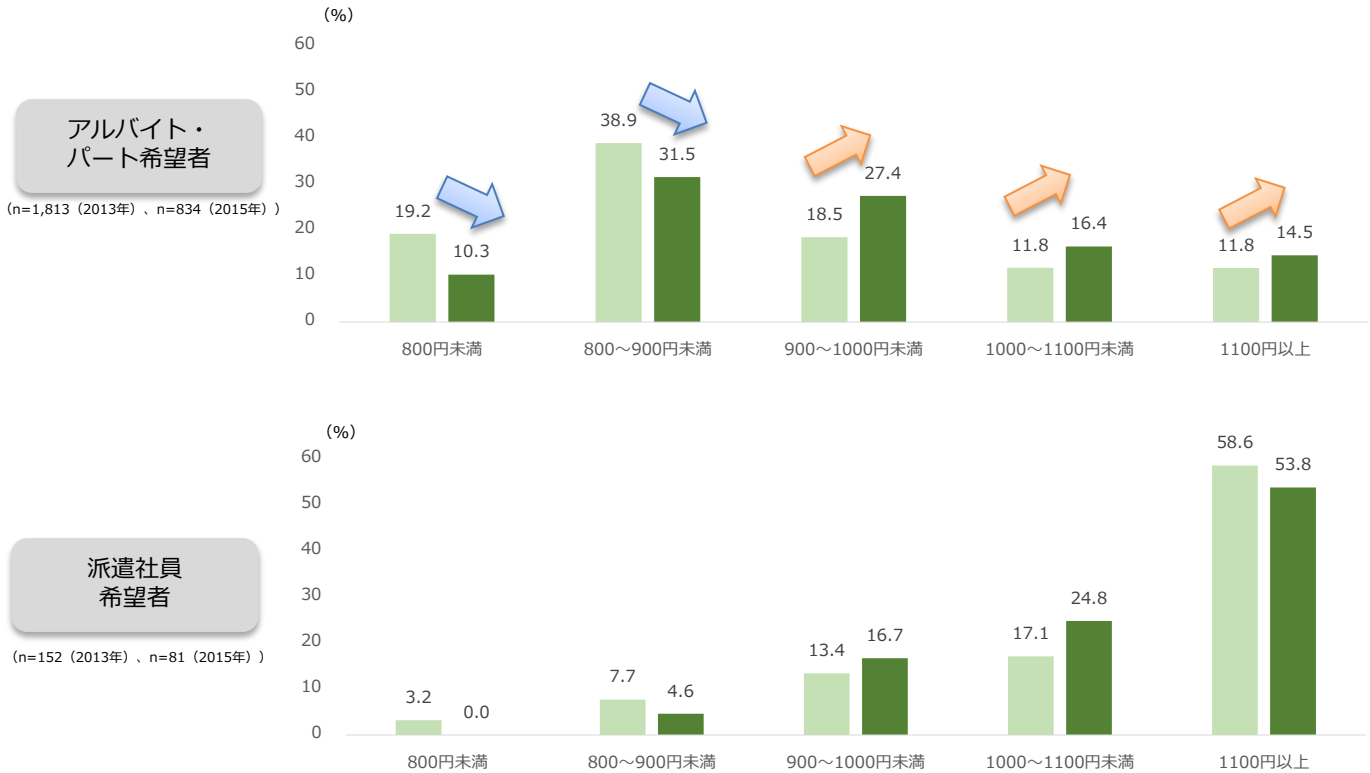
あなたが最も希望する働き方（就業形態）をひとつだけお選びください
（就業意向の設問において、「ぜひ働きたい」、「働いてもよいと思う」、「できることなら働きたくないが、働くしかないと思う」と回答した人を対象）。

Part 4. 今後の仕事に対する意識

■ 希望時給の変化①（希望就業形態別）

- 希望時給の変化を見ると、派遣社員希望者については、明確な傾向が見られないが、アルバイト・パート希望者では希望時給が高い割合が多くなっています。

希望就業形態別の希望時給の変化（2013年→2015年）



備考：契約社員希望者と正社員希望者については、サンプル数が50未満であるため掲載しない。

質問文
(2015年)

今後、仕事をするとしたら、時給にすると最低いくらくらいを希望しますか（就業意欲がある人のうち、最も希望する就業形態がアルバイト・パートか派遣の方が対象）。

Part 4. 今後の仕事に対する意識

■ 希望時給の変化②（アルバイト・パートのエリア別）

・希望時給の変化を回答数が多いアルバイト・パートでエリア別に見ると、北海道・東北、中国・四国、九州・沖縄において、800～900円未満の時給の割合が高くなり、それ以外の地域では、900～1000円未満の割合が上昇しています。

アルバイト・パート希望者のエリア別希望時給の変化（2013年→2015年）



質問文
(2015年)

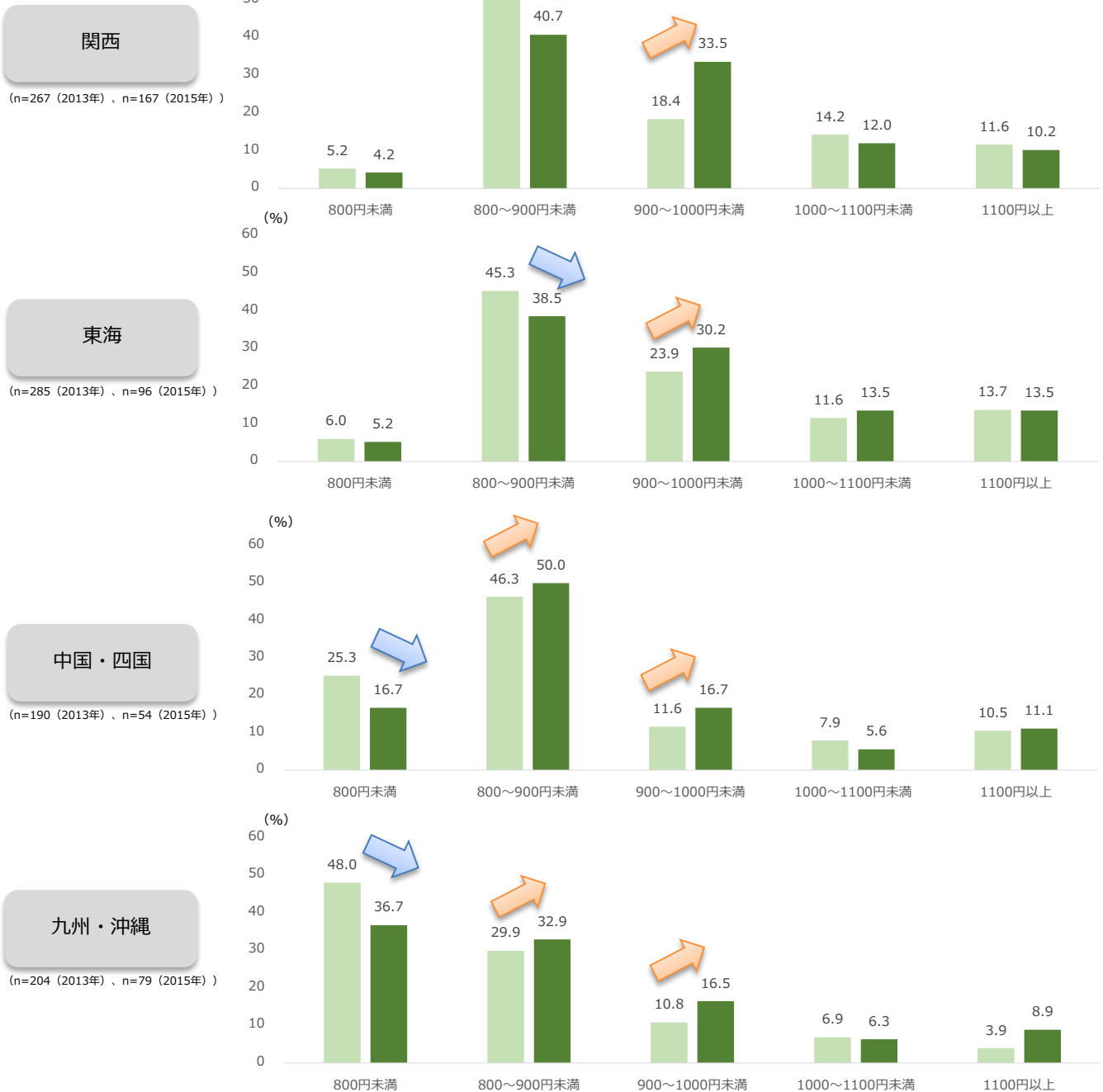
今後、仕事をするとしたら、時給にすると最低いくらくらいを希望しますか（就業意欲がある人のうち、最も希望する就業形態がアルバイト・パートか派遣の方が対象）。

Part 4. 今後の仕事に対する意識

■ 希望時給の変化②（アルバイト・パートのエリア別）

- 希望時給の変化を回答数が多いアルバイト・パートでエリア別に見ると、北海道・東北、中国・四国、九州・沖縄において、800～900円未満の時給の割合が高くなり、それ以外の地域では、900～1000円未満の割合が上昇しています。

アルバイト・パート希望者のエリア別希望時給の変化（2013年→2015年）



質問文
(2015年)

今後、仕事をするとしたら、時給にすると最低いくらくらいを希望しますか（就業意欲がある人のうち、最も希望する就業形態がアルバイト・パートが派遣の方が対象）。